

# 漢字語彙の定着と拡充のための教室活動

オックスフォード大学

ガッチ洋子

yoko.gutch@orinst.ox.ac.uk

## 1. 背景

### 1.1. 出発点

この発表は、「学生が漢字の読み書きに四苦八苦し、理想的には漢字が語彙拡充の武器になるべきなのに、実際には重荷になっている」という問題意識が起点になっている。この問題を軽減する道のひとつは次のことであろう。

- 一 読み書きに使う時間をおさえる。一 漢字の字形の識別、認識訓練、部首や形声文字の「声」の部分の活用により読み書きの指導・学習の効率を上げる、読み書きの現実的な目標を設定することなどを通して。ただし、時間さえあれば問題は解決するかというと、そうではない。これは、外国人学習者に比べて何倍も漢字に時間を費やしてきた日本人学習者が、読みはともかくとして、書くことや漢字語彙の使用では不消化と力不足に悩まされているという状況が指摘している (Gutch 1998b)。

これと平行して、

- 二 語彙構成要素としての漢字の役割を強調する。一 ある漢字が同じ構成でいくつも漢語を作るとき、その事実を指摘する、既習の漢語に入っている漢字の知識を未習の漢字の学習に役立てることなどにより。

- 三 漢字を含むことば（特に漢語）の使い方を積極的に教える。

一の検討は別の機会に譲り、ここでは二と三について考えたい。

### 1.2. 語彙研究一般から

語彙の指導の実践と研究についてはJSL (Japanese as the Second Language) より英語を中心としたSLA (Second Language Acquisition) の分野の方がはるかに歴史が長く、参考になる研究成果が多くある。これらの成果を鵜呑みにするのは危険だが、漢字の特性を念頭に置きつつ注意深く使うことはできる。

日本語に限らず、一般的に語彙の指導を考えると、次のような点は留意する価値があると考えられる。

- (a) そのことばが必須であればあるほど (Brown, 1995の言う 'saliency')、そのことばの処理に学習者が深く関われば関わるほど (Nattinger, 1988が引用している 'cognitive depth')、ことばの定着はよくなる。
- (b) 語彙学習と「読み」の学習は持ちつ持たれつの関係にある。(Stoller & Grabe, 1995) 覚えるべき語彙の膨大な数を考えると、教室内の指導だけでは不十分で、広範な「読み」の活動が必要となる。キーワードが繰り返し出てくる点でも、登場することばが十分な文脈の中で使われている点でも、読みを通しての語彙学習は貴重である。ただし、文法、基礎語彙などの基本がしっかりしていないと、文意をとらえることすらままならない、獲得目標である新語の意味を間違っ理解するなどの不都合を生じる。

また、だれの説を引くまでもなく、常識として了解されていることだが、

(c)辞書で与えられたことばの意味を知っているだけでは、そのことばを使えることにならない。正しい文脈の中で適切に使えなければならない。

### 1.3. 語彙構成要素としての漢字

一方、漢語を語彙として教えるとき、漢語の数ある特徴の中で、特に次のような点に注目するべきであろう。

- (1)接辞になる漢字以外にも、接辞並に多くの漢語を作る漢字がある。Sampson (1985)は中国語について、英語ならking, royal, regalなどは互いに語形に関連のない一連のことばにすぎないが、これらに該当する中国語では共通要素を表す漢字がすべてに入っていると述べているが、これは日本語にも当てはまると思われる。中でも同じ構造で多くの漢語を作る漢字は注目に値する。入社、入学の「入」、即売、即答の「即」など。
- (2)単漢字が語、または語の一部を表すmorphograph(形態素文字)であるため、それが連なってできた漢語は一語のことも、形容詞句や名詞句のこともある。帽子、結婚は前者の、最適、新車は後者の例。何を一語とするか「一語」の定義は曖昧だが、少なくとも英語や分かりやすい日本語に言い換えたときは、一語、または句になっている。
- (3)同音の漢字が多いため、書き手にとって新語の場合は、音がわかってほとんど書く助けにはならない。特に同音語が二つ以上ある場合は、語の意味がわかって初めて構成字が規定できる。

(1)と(2)は漢語を分析して教えることの無意味を唱える種々の主張 (Gutch, 1998a, b)にもかかわらず、漢語の分析に意味がある場合が多いことを示していると思われる。(3)の場合も、ただがむしゃらに書いて覚える、場当たりに覚えることの不毛を示唆している。新幹線の「幹」は書けても幹部や根幹の「幹」は書けないという知識の無駄をなくすためにも、音と意味を結びつけた構成字の分析が必要となろう。

もちろん様々な構造を持つ漢語を十把ひと絡げには教えられないから、教師の側としてはもちろん、いつ分析が効果的か、いつそうでないかの目安を作り (Gutch 1998b)、めりはりの利いた指導をするべきだが、冒頭の二を考えると、(1)－(3)は学生に向かって強調するべき点であろう。

### 1.4. 漢語の構造理解の諸段階

漢語は構造が多様なだけでなく、同じ漢語でも学習者の知識によって、その理解のしかたに違いが出てくる。ちなみに漢語の約80%を占める2字漢語がオックスフォード大学の平均的な2、3年生の目にどう映っているかを分類すると、下記のようなになる。

- (あ) ふたつの漢字の意味と語構成がわかる。例－最大、新車。
- (い) ふたつの漢字の意味はわかるが、語構成がわからない。例－勉強、会社。
- (う) ひとつの漢字の意味だけわかる。例－洪水、輩出。

(え) 漢字の意味も語構成もわからない。例－挨拶、賄賂。

外国人学習者だけでなく日本人も、御するなどの単漢字漢語や奸むなどの比較的難しい訓読みの衰退による単漢字の知識の弱体化(宮島、1977)、語源の消失などにより(矛盾の語源を教えられた学習者にとってはこれは(あ)だが、教えられなければ(え)になる)、漢語の理解は全体として(あ)から(え)に向かって動いていると思われる。しかし(あ)にはまだ膨大な数の漢語が入っている。

冒頭の二を具体的にどうするかについては、(あ)の類を系統立てて教えることで語彙力は飛躍的につくはずである。そしてこういう漢語の導入、練習には Basic Kanjiなどの優れた学習書がすでにある。

一方、まとめて導入することがむずかしい(い)－(え)は以下の例のように実際に使うことが定着の助けになろう。ただし、導入時に(う)で学生が洪水を「水と関係がある」、輩出を「出るみたいな意味」ととらえるだけでも記憶の助けになるはずである。また(い)、(え)で語源がある場合、それを教えることで意味が学生の頭に焼きつけられることもある(Gutch、1998b)。以下の教室活動に出てくる漢語のうち、既習のもので、こうした語構成の説明に意味があると思われるものは、それを紹介時にすでにしてある。

またここで言ったように、(あ)の類も実際に使ってみて初めて語彙として定着したことになる。

## 2. 語彙の拡充と定着をはかる教室活動

いくつか例を挙げて内容とそのタスクのねらいを簡単に記した。

( )内はこれらの活動が実際に行なわれている、あるいは効果的だと思われるオックスフォード大での学年。

### 2.1. 五分間スピーチ(1年後期－3年)

学生が宿題として準備したスピーチをしているとき、教師は新出語を登場順に板書する。2週間後にその語彙表を見せ、スピーチの内容をたどりながら各語の意味を学生達に思い出させる。

ねらい

\* 話すときでもまとまったことを言おうとするとかなりの漢語を使わなければいけないことを学生に気づかせる。

\* 各語の意味を物語に沿って思い出すことで、羅列された語彙を覚えるより覚えやすくする。

### 2.2. 漢語カード(2、3年)

学習した漢語を1語ずつ書き込んだカードを50枚ほど大きいテーブルの上に広げ、読み、品詞、和語との対応、目的語、動詞との共起関係、使い方(「アイルランド問題のニュースに出て来そうなのはどのことばか」、「カードを使って一人ずつ順番に文を作り、「xxさんの1日」という話を仕上げなさい」)を練習する。

ねらい

\* 特につながりのない50あまりの漢語をまとめて、読み、文法、使い方など様々の

角度から復習することで定着をはかる。

- \* 取りたい一心で学生は非常に集中してカードを見ている。字形、音と字形のつながりが普段以上に印象づけられる可能性がある。

### 2.3. 漢字の音に慣れ親しむ練習（2、3年）

ある音読みを持つ漢字（たとえばショウ）を3分間で思いつくだけ学生に書かせる。その後、「正月の正」「証人の証」というように、代表的な漢語を挙げながら、学生に答えを言わせる。もれていた漢字は同様のやり方で教師が補う。次に漢字の意味が如実に漢語に反映されている例を選んで（上記（あ）（い）（う）にあたる例）あらかじめ作っておいた練習問題をする。この中には新出語彙も故意に含めてあり、英訳と漢字の意味から正しいショウを探す。

練習問題の例ー [ショウ] 拠ーproof [ショウ] 利ーvictory

ねらい

- \* 訓の知識の衰退とは逆に、ある種の音読みのことば、つまり漢語はメディアなどの強い影響のもとに日常生活に深く入り込んでいる。上述のように単漢字の音だけでは何も意味をなさないが、漢語をたくさん作る漢字の音読みには敏感になる必要がある。言い換えれば、音と字形とその字義（あるいはその字が典型的な意味で使われている漢語の語義）のつながりが密になるようにし向けなければいけない。これはその一助。  
まず、その漢字の意味を表す代表的な漢語をひとつ覚え、その語感と知識を使ってさらに語彙を増やしていく。

### 2.4. 短編小説を読む（2年後期－4年）

文法と語彙の注釈を十分つけた作品を読むことを長期休暇の宿題として課す。翻訳はあえてつけない。

ねらい

- \* 「日本語ではいつまでたっても楽しみのための読書をするレベルに到達できない」という学生のあせり、寂しさ(!)を軽減する。
- \* 文法と語彙の注釈によって辞書なしでも原文が正しく解釈できるようにし、新出文脈を理解した上で、新しい漢字語彙の意味が文脈から正しくくみ取れるようにする。

### 参考文献

Brown, C. 1995. Factors affecting the acquisition of vocabulary: frequency and saliency of words. in Huckin et al. (eds.) *Second language reading and vocabulary learning*. Ablex Publishing, 1995.

Gutch, Y. 1998a. 「語彙としての漢字ー習得上の問題点と解決法」。第10回日本語教育連絡会議報告書。

Gutch, Y. 1998b. 'The importance of kanji teaching in the achievement of competence in Japanese.' A M.Litt.thesis submitted to the University of Oxford.

宮島達夫 1977。「近代日本語における漢語の位置」。「国語国字問題の理論」。むぎ書房。

Nattinger, J. 1988. 'Some current trends in vocabulary teaching.' in Carter & McCarthy (eds.). *Vocabulary and language teaching*. Longman. 1988.

Stoller, F. & W. Grabe. 1995. Implications for L2 vocabulary acquisition from L1 vocabulary research in T. Huckin et.al. (eds.) *Second language reading and vocabulary learning*. Ablex Publishing. 1995.